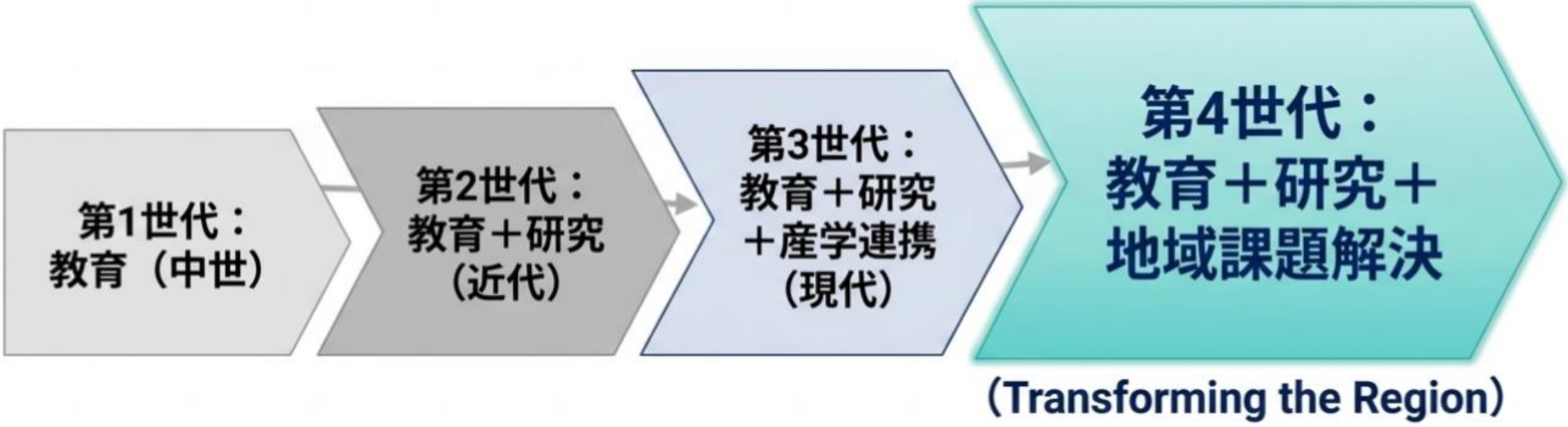
第4世代大学

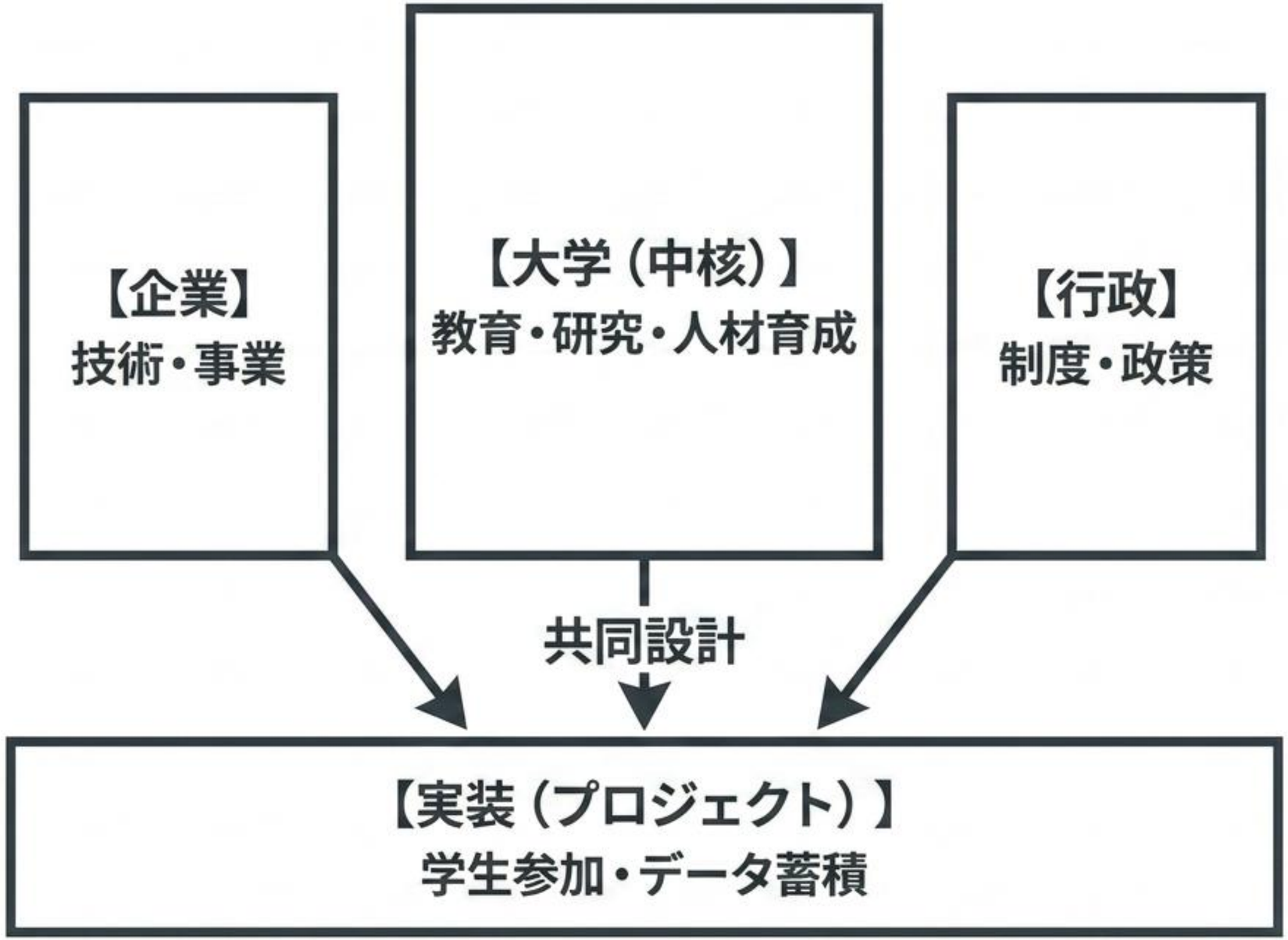
「教育する大学」から「地域を変える大学」へ：第4世代大学への挑戦



【Insight】大学は象牙の塔を降り、地域社会・企業と一体となって地域の生き残り（Resilience）を牽引するエンジンへと進化しなければなりません。

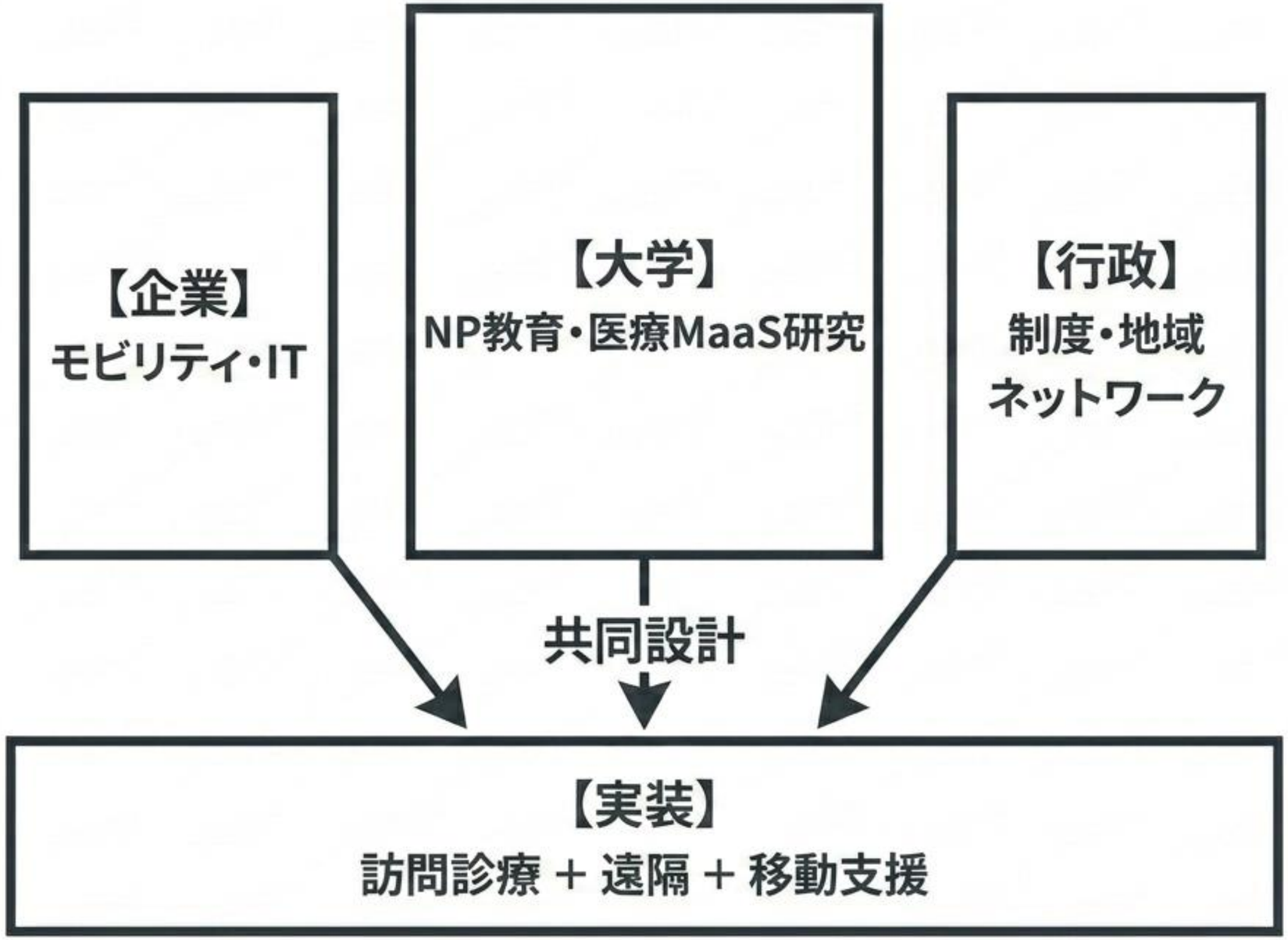
~~大学＝場所~~

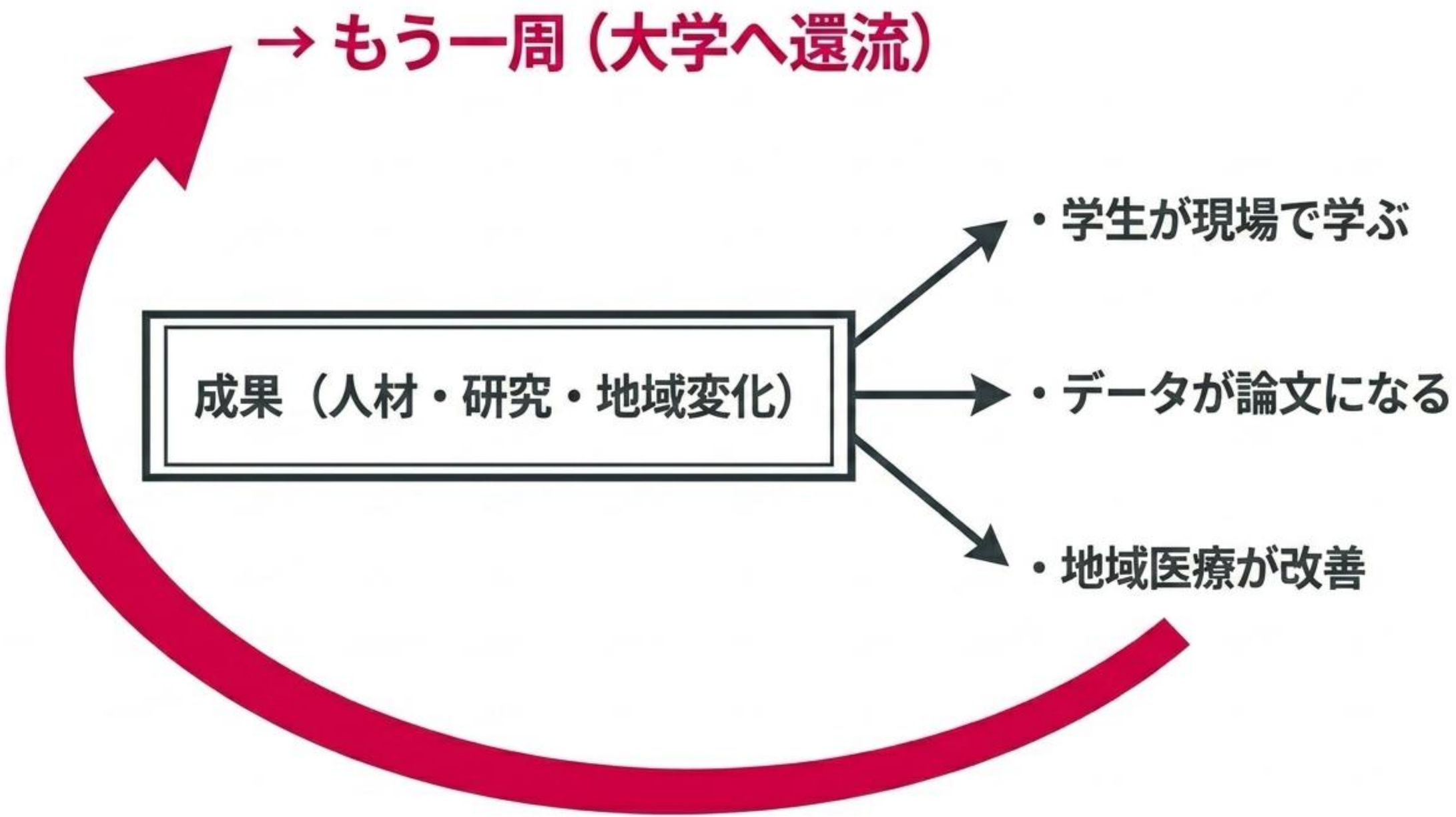
大学＝
主催者（プロデューサー）


【企業】
技術・事業
【大学（中核）】
教育・研究・人材育成
【行政】
制度・政策
共同設計
【実装（プロジェクト）】
学生参加・データ蓄積

例

課題：中山間地域の医療アクセス




→ もう一周（大学へ還流）
成果（人材・研究・地域変化）
・学生が現場で学ぶ
・データが論文になる
・地域医療が改善

（第3種郵便物認可）　山陰中央

介護現場 改革者は島根大生

藤原さん、予定や報告デジタル化

浜田の施設で「負担軽減したい」

島根大総合理工学部4年の藤原匡之介さん(21)らが大学で学んだデータサイエンスの知識を生かし、人手不足が深刻な介護現場の作業効率化に取り組んでいる。昨秋からは浜田市内の事業所で、手書きしていた予定や報告事項のデジタル化を任され、経営会議に出席するまでになった。「職員の皆さんとコミュニケーションを取り、現場の負担を少しでも軽減したい」と意気込んでいる。（三浦純一）

スタッフと打ち合わせをする藤原匡之介さん（中央）＝浜田市金城町今福、サンガーデン輝らら☆

福井県出身の藤原さんは、島根大で半導体やデータサイエンスを学ぶ。授業でつながりができた介護サービスなどを展開する高村（浜田市三隅町古市場）に経験を見込まれ、業務を受託する形で昨年10月から有料老人ホーム「サンガーデン輝らら☆」（同市金城町今福）で業務の効率化を担う。中学時代に職場体験で介護事業所を訪ね、仕事内容に触れたのも関わる一つのきっかけになったという。

授業のない日は浜田市内に滞在し、施設の仕事に傾注。大学の仲間と共に職場の一角に手書きで張り出している連絡事項や行事日程をデジタル化し、大型モニターやパソコンで確認できるようにする作業を任されている。時には経営会議に出席し、作業の進み具合を経営陣と共有している。

「デジタル化は近く完了する見通しで、藤原さんは「会議では経営者の考え方が分かり、とても勉強になる。社会に出てこの経験を生かしたい」と話し、高村の加藤雄太取締役(40)は「経験を生かして難しい作業を担ってもらい、ありがたい」と感謝した。

山陰中央新報2026年6月10日18面

enginepot
江津企業のインターンのプラットフォーム
ごうつ企業
ブランディングインターン
株式会社enginepot
©2026 enginepot.ALL
はじめに
アイスブレイク

Hackやくも

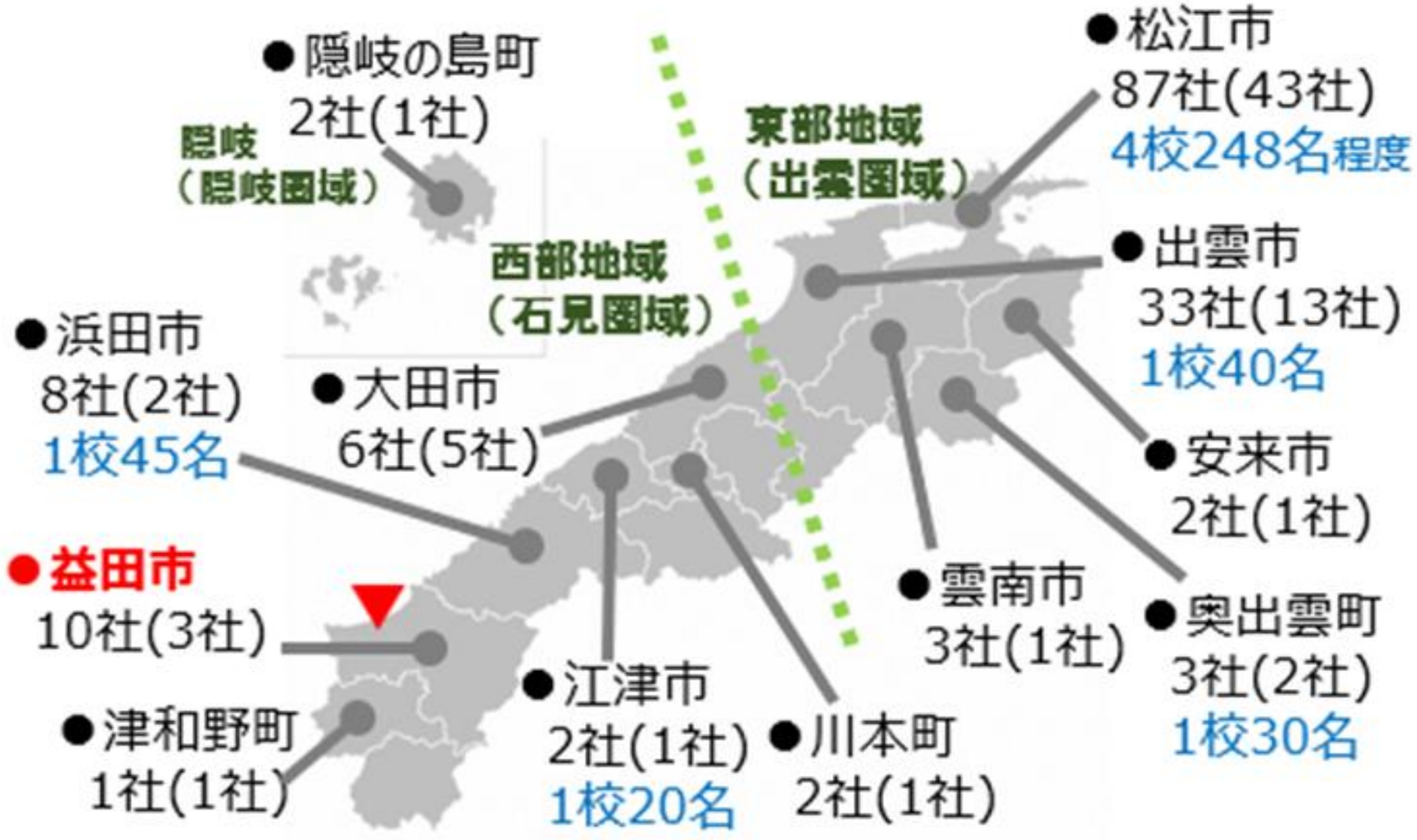
ホーム　連携のご案内　Demo Day in Matsue　ご相談はこちら

グローバル × 地域 × テクノロジーで描く、新しい共創のかたち

Hack Yakumoは、日本・東欧・多国籍のエンジニアがチームを組み、リアルな課題解決に挑む国際ハッカソンシリーズです

参画方法を見る　Demo Dayを観覧する

【IT企業・IT系高等教育機関の東部地域偏在】



黒字：IT企業数　（県外本社企業数）＜2026年1月現在＞

青字：IT系高等教育機関数・定員
（定員比較／東部：西部＝318名程度：65名）
※IT系の学科・コースを有するが、エンジニア養成を目的としていない大学等の定員を含む

島根経済同友会石央支部総会
島根県西部県民センター勝部考子所長講演資料
2026年6月5日

西部高等技術校

- OAシステム科
- 事務ワーク科
- 建築科
- 機械加工・溶接科

専門課程の新設
（令和１１年４月予定）

島根県立情報技術短期大学校（仮称）

情報技術科
（専門課程：２年・定員２０名）

・地域産業の高度化等に必要なデジタル人材を育成する専門課程を新設
・地元市町との連携により求職者と求人企業のニーズを踏まえ、地域産業のデジタル・DX化に資する人材を育成

専門人材育成

産業の高度化　**好循環**　さらなる雇用創出

地域内企業
（ＤＸ推進）

デジタル技術導入支援　高付加価値企業の誘致

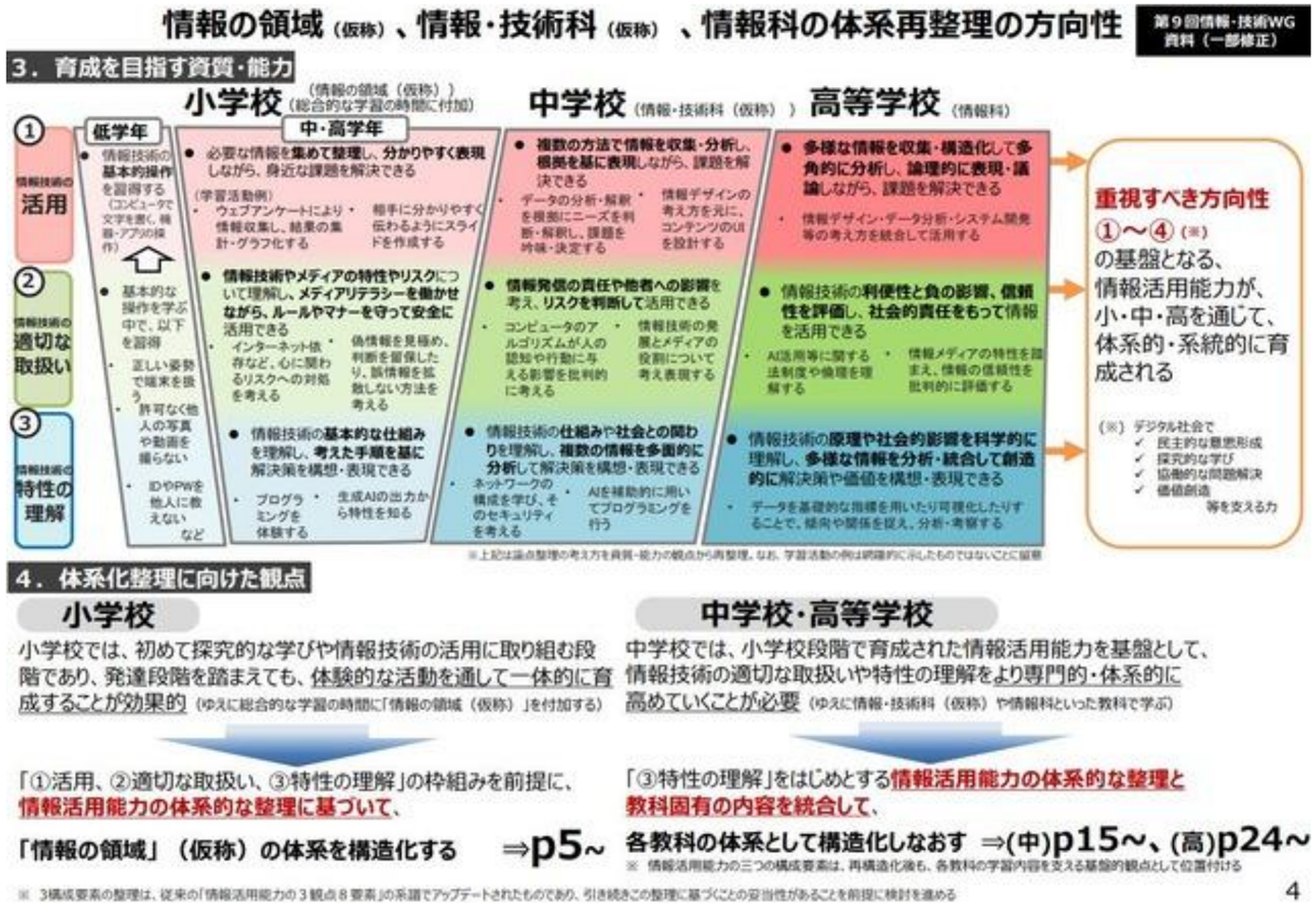
県・市町・支援機関　等

ポイント　**産業振興と人材育成の取組を同時並行で推進**

島根経済同友会石央支部総会
島根県西部県民センター勝部考子所長講演資料
2026年6月5日

小学校に「情報の領域」付加、中学は新教科創設へ…次期指導要領

文部科学省の教育課程部会 情報・技術ワーキンググループは、次期学習指導要領の改訂に向け、小学校への「情報の領域（仮称）」の付加や、中学校「情報・技術科（仮称）」の新設など、小中高を通じた情報教育の抜本的な体系整理について議論が大詰めを迎えている。



https://reseed.resemom.jp/article/2026/06/11/13435.html

島根県立大学のAIを使った研究

現在進行形の島根県立大学のAIを使った研究内容

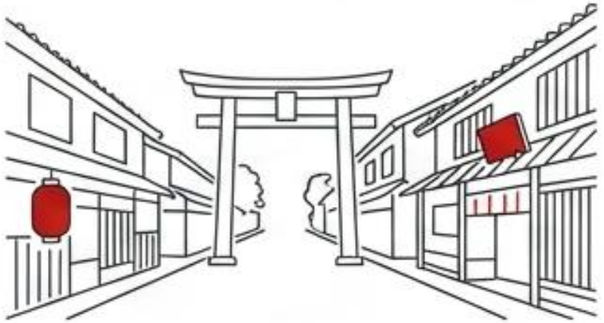
川本町	MaaSを活用した認知症予防料理教室による主観的認知障害（SCI）高齢者への介入効果の検証とDigital Cognitive Health Ecosystemの構築
出雲市	生成AIを活用した音声対話型高齢者総合機能評価（CGA）の有用性検証に関する研究
出雲市	出雲遠隔医療実証事業　医療MaaS

石見地域文化国際ラボ

島根の豊かな自然、文化、人々とのつながりを学びの原点に。
地域とともに進化し続ける、島根県立大学の新たな挑戦。

研究・発信の源泉となる「石見の多層的な文化」

石見地域には、文化庁認定の「日本遺産」だけでも5つのストーリーが存在し、
180を超える構成文化財が息づいています。



津和野今昔：百景図を歩く

180+
構成文化財

荒波を越えた男たち：
北前船寄港地・船主集落

神話の世界：
石見地域で伝承される神楽

悠久の歴史：石見の火山、“縄文の森”“銀の山”

中世日本の傑作：益田を味わう

これらは過去の遺物ではなく、未来を創るための「極めて価値の高い公共財」です。

山陰総合

題字

島根県立大が研究センター

県西部の歴史文化や街づくり

26年度にも設置へ

島根県立大（本部・浜田市野原町）が県西部の文化研究に特化した付属研究センター「石見地域文化国際ラボ（仮称）」を2026年度にも設置する。石見神楽など県西部の歴史文化や観光、街づくりをテーマにした研究と交流を目指し、4月に設置準備室を立ち上げた。

新たなラボは地域文化の調査研究に加え、地元の郷土史家の育成、支援や研究成果の資料配布による高校への教材提供などを想定。

浜田キャンパスが立地する県西部の豊富な歴史、文化遺産の研究を深める狙いがある。

具体的な研究内容は、旧那賀郡木田村（浜田市旭町木田）出身の政治、実業家・佐々木[illegible]のデジタルアーカイブ（インターネット公開）化▽[illegible]による観光交流を中心[illegible]ーシブ（多[illegible]ーリズム[illegible]ルガロッソ[illegible]を中心と[illegible]と街づくり[illegible]すでに浜[illegible]教員4人が[illegible]楽資料の記[illegible]道をテーマ[illegible]ウムなどを[illegible]26年度は設[illegible]

2026年度中にも設置する大学付属研究機関の構想を説明する推進室の濱野靖一郎教授＝浜田市野原町、島根県立大

教員欠員37人 2年ぶり改[illegible]

島根公立校 前年度比27[illegible]

島根県教育委員会が22日、2026年度（4月1日時点）の県内公立学校の教員欠員が37人だったと明らかにした。前年度比27人減で2年ぶりに改善した。少子化による配置必要数減少と非正規の人員確保で補い、学級担任や教科担当が不在になる事態はないとしている。

配置必要数は前年度比29人減の7486人。欠員の内訳は、高校17人、小学校と特別支援学校各7人、中学校6人だった。県教委は教員退職者に積極的に声をかけて採用し、1年の期限付き任用の[illegible]22人減の16[illegible]を取る教員[illegible]短期任用の[illegible]21人にとど[illegible]

26年度の[illegible]定員360[illegible]人。1次試[illegible]から2カ月[illegible]

本講演のまとめ

島根県立大学と島根県情報産業協会の連携

若者の可能性を広げる大学教育と、その可能性を活かす地域企業

AI時代に必要なのは「知識」より「課題解決力」

AIは単純作業やコーディングを代替する
人間には課題発見・構想・実装が求められる
地域企業にも「AIを使いこなす人材」が必要

島根県立大学が育成する人材

プログラマー養成だけを目指さない
経営・データ・AIを活用できる人材
地域課題を発見し解決できる人材
地域企業のDXを推進できる人材

第4世代大学への挑戦

教育する大学から地域を変える大学へ
大学の中だけで人材育成は完結しない
企業・自治体・高校・大学が一体となった人材育成が必要

島根県情報産業協会の皆様へ。
AI時代の「地域の受け皿」を共に設計しませんか。

01 共同カリキュラムの設計
企業課題をテーマにしたPBL（課題解決型学習）の導入検討。

02 現場メンターの派遣
学生のアイデアを「ビジネスの現実」で鍛え上げる技術者の派遣。

03 インターンシップの再定義
「見学」から、共にAIソリューションをプロトタイピングする「実戦」へ。

IT企業の皆様への提言

大学の中だけで人材育成は完結しません。実践的なインターンシップ、企業の現場課題を用いたPBL（課題解決型学習）、社会人講師の派遣など、双方向の連携が不可欠です。

終わりにあたって

若者の可能性を広げるのは、大学の使命です。
しかし、その可能性を地域で活かす器を作るのは、
IT企業の皆様との「共創」によってのみ実現します。

島根の未来を、共に実装しましょう。

【Insight】進学時という「ラスト・チャンス」を逃さず、若者が熱狂できる
DXの器を島根に創り上げること。それが我々の共同ミッションです。

ご清聴ありがとうございました。

出雲キャンパス学園祭　2026年6月13日